



Kobe University Repository : Kernel

Title	彙報 : 平成23(2011)年度 海港都市研究センターの活動
Author(s)	稲岡, 大志
Citation	海港都市研究, 7: 111-112
Issue date	2012-03
Resource Type	Departmental Bulletin Paper / 紀要論文
Resource Version	publisher
URL	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/81003850

Create Date: 2013-01-18



彙報

平成 23 (2011) 年度 海港都市研究センターの活動

平成 23 (2011) 年度の神戸大学大学院人文学研究科海港都市研究センターは、昨年度末で終了した文部科学省・大学院教育改革支援プログラム「古典力と対話力を基礎とした人文学教育」の後継である共同研究組織「古典力・対話力プログラム」、さらには日本学術振興会「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」などと連携して、海港都市に関する研究会を組織・運営するなど、研究面の拡充を図った。

(1) 人文学研究科共通科目の実施状況

①海港都市研究<前期>

今年度は昨年度に続き、都市神戸の現場で「越境者」に関わる活動を行っている方々と、海港都市その他を舞台とする越境文学について紹介できる人文学研究科の教員を講師とし、多角的な視点から海港都市の生活・文化の在り方を明らかにすることを目指した。

前半は NPO 法人の理事長等、6 名の非常勤講師が、神戸在住の外国人コミュニティの歴史と現状について、当事者またはそれに近い立場からの講義を行った。後半は人文学研究科の教員（中国文学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学）が、世界の越境文学の諸相について、具体的な作品に即した講義を行った。出席者は毎回 10 名程度であった。

②海港都市研究交流演習(海港都市研究交流企画演習) <前期>

例年同様、大学院生が専門分野の枠を越えて横断的に議論するなかで、自らの研究を学際的・国際的な視点から見つめ直し、同時に研究の意義を有効にアピールする能力を養うことを目的として開講した。なお、本演習は 6 月に国立台湾大学で開催した国際学術シンポジウム「東亞人物移動與文化的多様性國際研討會」の準備報告会も兼ねた。演習では、各自が研究発表を

行い、教員や他の受講生と議論を行うことを通じて、学際性の高い場でも自分の研究の持ち味をより効果的に伝えることができるような心構えを身に付け、プレゼンテーションに関する技術を伸ばすことができた。また、今年度は、受講生同士の意見交換をより円滑に行うためにコミュニケーションペーパーを導入するなど、限られた時間内で受講生が効率よくスキルアップできるように工夫を重ねた。

(2) 学際的かつ国際的な研究交流

①第 7 回海洋文化国際シンポジウム「東亞人物移動與文化的多様性國際研討會」

2011 年 6 月 10・11 日、国立台湾大学において、国際学術シンポジウム「東亞人物移動與文化的多様性國際研討會」が開催された。これは、「海港都市」にまつわる諸問題を多角的に考察するため、アジア圏の研究者が国境や専門分野を超えて意見交換を行い、大学院生同士の研究交流を目的とする国際学術シンポジウムで、今回で 7 回目となる。今年度は台湾大学日本語文学系などが主催となり、教員 3 名、大学院生 6 名が研究発表を行った本学に加え、韓国海洋大学校、長崎大学などからの参加者による研究発表が行われた。

研究発表を行った大学院生からは「私の報告内容は、全報告者の中で一番古い時代を扱ったものであり、かつ土地制度史(所有史)という非常に専門的な色彩の強いものであった。そのため正直なところフロアからの反応はあまり期待していなかった。ところが予想に反して、フロアや司会者(主持人)からの質問、報告後にもわざわざ意見を伝えに来てくださった方がいて、驚きとともに、準備報告の成果を感じることができて非常に嬉しく思った」(シンポジウムの反省として受講生に課した海港都市研究交流演習のレポートより抜粋)といった感想が寄せられた。

②海港都市研究会

今年度より「海港都市研究会」として、本研究科の博士号取得者が研究内容を報告して教員や大学院生らと意見交換を行ったり、国外の研究者が研究発表を行う場を設けた。今年度の開催実績は以下の通りである。

第1回海港都市研究会

日時：2011年6月28日（火）13：00-15：00

場所：文学部小会議室

発表者：権京仙（神戸大学大学院人文学研究科学術推進研究員）

発表題目：近代における中国山東省民の移動と海港都市青島の発展

主催：神戸大学大学院人文学研究科海港都市研究センター

第2回海港都市研究会

日時：2011年12月12日（月）17：00-18：30

場所：文学部小ホール

講演：The Second Great Exchange: The 'Globalization' of Disease in the Long Nineteenth Century

講演者：Mark Harrison (University of Oxford, Professor of the History of Medicine, Director of the Wellcome Unit for the History of Medicine)

主催：神戸大学大学院人文学研究科海港都市研究センター

共催：神戸大学大学院人文学研究科古典・対話力プログラム

(3) 国内外の大学との連携

学術シンポジウム「東亞人物移動與文化的多様性国際研討會」に参加した長崎大学環境科学部葉柳和則教授と本センター副センター長藤田裕嗣教授は後日意見交換を行う機会を持ち、今後長崎大学内の研究プロジェクト「持続可能な東アジア交流圏の構想に向けた人文・社会科学のクロスオーバー」と本センターとで連携体制を確立し維持することが確認された。具体的には2012年3月に長崎大学で開催予定の記憶をテー

マにしたシンポジウムに本学から教員・大学院生が招聘参加する予定である。また、予算の関係で今年度は開催を見送らざるを得なかった資料収集・研究交流会に関しても、次年度は両学の連携で開催する方向で調整を進めている。

さらに、第2回海港都市研究会の講演者 Mark Harrison 教授はオックスフォード大学ウェルカム医学史研究所の所長で、医学史を専門とするが、研究会後の意見交換では、2011年11月に神戸大学大学院人文学研究科とオックスフォード大学ハートフォードカレッジの間で締結された学術交流協定とも連携して、本センターと Harrison 教授がオックスフォード大学内で現在設立準備中のグローバルヒストリーセンターとも交流を深め、両大学の教育・研究上の交流を発展させることが確認された。

(4) 研究成果の発信

①紀要『海港都市研究』の刊行

2012年3月、海港都市研究センター紀要『海港都市研究』第7号を刊行した。第7回海洋文化国際シンポジウム「東亞人物移動與文化的多様性国際研討會」の記録、参加者である澤井廣次の査読論文、第2回海港都市研究会の Mark Harrison 氏の講演原稿、史料紹介、書評、コラム等を収録した。

②海港都市関係資料の調査

今年度も継続して附属図書館との共同作業を進めた。また、2011年6月3日にオーストラリア国立図書館アジアコレクション日本語課の篠崎まゆみ氏が本学を訪問した。本センターや社会科学系図書館を案内し、神戸震災資料や神戸開港文書を紹介した上で、資料の保存やデジタル化に関して専門家の立場からの意見を提供していただいた。

(文責：稲岡大志)